

## 2019年度大学コンソーシアムとちぎ「大学を超えた共同研究支援事業」報告書

所属機関名	足利大学
団体・グループ等名	足利大学・足利短期大学まちづくり研究会
研究代表者名 (所属部署)	大野隆司 (足利大学創生工学科建築・土木コース 准教授)
研究連携担当者名及び連絡先	采澤陽子 (足利短期大学こども学科 講師) 藤谷英孝 (工学部創生工学科 講師)
研究連携校名	足利短期大学
関連自治体・経済団体等名	

1. 研究事業名	足利市・足利大学まちづくり研究所の創設を目指すための勉強会「足利まちづくり大学」
2. 実施年度	2019年度
3. 研究成果等	<p>本研究は足利市・足利大学まちづくり研究所の創設を目指すための端緒として、先例や専門家の経験を学び、今後の研究所創設の一步とすることにあつた。約3カ月ごとに専門家を招聘して、「足利まちづくり大学」を開校する予定だつた。第1回、第2回は予定通り開催されたが、2020年3月、そして7月に開催予定だつた第3回、第4回は新型コロナウィルスの影響で開催を見送ることになった。それは、単純に講演会を開催して知識を得ることばかりがこのプロジェクトのポイントではなく、専門家に足利市に足を運んでもらい、街をご覧いただき、意見をもらったり、議論をすることも重要であつたからである。よつて、研究連携担当者と議論の結果、第3、4回を見送つた。そこで、第1回、第2回を中心にその成果を報告する。</p> <p><u>第1回・第2回の足利まちづくり大学の内容について</u></p> <p>第1回は、川向正人氏（小布施まちづくり研究所長、東京理科大学名誉教授）による「小布施まちづくりの軌跡、その先」を2019年10月26日（土）15:00～17:00に足利大学本城キャンパス1階交流センターで開催した。川向氏からは、「東京理科大学・小布施町まちづくり研究所」創設の経緯から、実際にどのように調査研究を行い、成果を</p>



(上) 川向正人氏 (下) 川向氏の PPT のイントロ

公表し、さらに行政・住民とどう協働して現実のまちづくりに参画していったかを、プログラム・組織図・写真などを使って説明された。

第2回は、北原理雄氏（千葉大学名誉教授）による「公共空間を活かす 街が活きる」を2019年12月21日（土）15:00～16:30に足利大学大前キャンパス多目的ホールで開校した。氏がこれまでに経験した地域での取り組みの紹介と、デンマークの建築家ヤン・ゲール氏の『人間の街：公共空間のデザイン』（訳：北原理雄）に基づいて、如何に人間の街に都市を近づけていくのか、豊富な写真を使って解説があった。

#### 足利まちづくり大学の成果について

大きく3つ挙げることができる。

1) 第1回は約80名、第2回は約65名の参加者を迎えることができた。もっとも多かったのが1年から4年生までの大学生で、そのほかにも、市役所職員、大学職員、近隣住民、新聞記者などに参加していただいた。参加者全員に足利まちづくり大学の活動に参加してもらえたことは、将来のまちづくり研究所のスタートに大いに効果が見込まれるだろう。

2) それぞれの講演は録音し、文字起こしをしたものを約1万字程度にまとめた。当初4千字程度にまとめる予定だったが、それには収まらないほど多岐の内容が話し合われたためである。現在編集中で、近日中にだれもが閲覧できるように掲載する予定である。これを通じて、学んだ内容をそのままにせず、反芻して自分たちの取り組みにも活用できると考えている。また、今後の足利市のまちづくりにとって貴重な資料ともなるだろう。

3) 第1回、第2回ともに足利市に後援していただいた。もともと足利大学と足利市はさまざまな面で協力体制をとっている。この勉強会を通じて、広く市民に対しても、今後のまちづくりへの思い、考えなどを周知する機会につながった。また、イベント開催の告知や活動をメディアに取り上げてもらったこともまだ始まったばかりの活動を周知することができたように思う。



北原理雄氏



北原氏の PPT のイントロ



出席くださった蟹江氏（足利大学理事）



講演後の質問時間での議論（質問者：茂木大河くん、足利大学3年生）

#### 4. 今後の課題及び発展性

第3回は子どもをテーマとして、地元の足利市の小俣で保育園を運営されている小俣幼児生活団長 大川真氏の講演が予定されていた。未来を担う子どものための空間をどのように都市空間に作っていくのか、古民家を改修して保育園として利用されている大川氏に提言してもらうことが目的だった。

第1回ではまちづくりの理念、第2回はまちをつくっていく手法をアカデミックな観点から学んだ。そこで次の段階は、すでに足利市のなかで活躍する地域の専門

家へとバトンをつなぎ、より地域に入り込んで一つ一つの具体例を学ぶことが必要だと感じた。

本年度は新型コロナウイルスの影響で第3回、第4回の見通しは立たなくなってしまった。だが、次年度は先述したように、アカデミックでグローバルな観点からスペシフィックでローカルな観点へと視点を移していく勉強会「足利まちづくり大学」を継続していく。継続していくことが、広く市民の関心を維持し、少しずつ先へと進む方法だと考えるからである。

次年度の「足利まちづくり大学」は、大川氏をはじめとする地元密着で実践している専門家（実務者）をゲストに迎えてイベントを開催したい。これまでのように講演のみならず、具体的な提案や議論を収録し、今後のまちづくり研究所の礎としていくつもりである。